

令和6年度堺市病院連絡会結果（概要）

開催日時：12月23日（月） 場所：堺市役所 本館3階 大会議室

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

○堺市は、大阪府全体と比べ、がんの需要減少がより見込まれているが、理由は何か。
（大阪府の回答）本推計は、2020年度の年齢構成ごとの算定実績に、堺市の推計人口に基づく当該年度の年齢別人口を掛けて算出している。このため、がんの手術について、算定実績の多い年齢層における将来人口が少なくなれば、将来の需要も減少する結果となる。

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1） 公立・公的病院

●近畿大学病院

（病院への質問）新興感染症への対応について積極的に取り組まれると聞いているがどのような工夫が行われているのか。

（病院の回答）新興感染症対応のための病棟を用意している。救急についても今以上に充実した設備で対応できるよう進めている。

（2） その他、民間病院等

●堺平成病院

（病院への質問）地域包括医療病棟入院料の算定要件が厳しく、運用が難しいと聞いているが、いかがか。

（病院の回答）ネックとなっているのは重症度。急性期や高度急性期で行われるような処置が含まれているため、回復期や慢性期の病院では対応が難しい状況である。当院としては、救急と、急性期病院からの転院搬送や地域の支援病院からの入院依頼に対応している。

3 その他

【医師の働き方改革に関する各病院の取組について】

○特定の診療科や個人に時間外労働が集中しているため、診療科での業務改善や個人の働き方の見直しを進めようとしている。

○特定集中治療室管理料1-4を算定すると、宿日直を行えないので、そのままの体制を維持しつつ医師の数も確保しないといけないため難しい。働き方改革だけではなく、全体で医療体制が成り立つことを議論しないといけない。

○経験年数に関係なく当直に参加する体制を整えている。また、救急と病棟の担当を

分けずに、全員で対応している。

○病院の規模が大きい場合、なかなかタスクシフト・タスクシェアができない。
今後の課題と認識。